

第63回

会社訪問

東科精機株式会社



会社プロフィール

代表者：取締役社長 小林 達

所在地：〒223-0057 神奈川県横浜市港北区新羽町558-1

TEL：045-541-4856 FAX：045-541-4876

設立：1985年11月

資本金：2,000万円

従業員：14名

事業内容：蒸留装置の製造・販売、委託蒸留、ガラス・石英の加工など

URL：<http://www.tokaseiki.com>

東科精機（株） 取締役社長 小林 達氏へのインタビュー

聞き手：野村篤史（広報委員） 白濱康彦（事務局）

（編集協力：クリエイティブ・レイ株）

“蒸留装置”により石油産業からバイオ関連産業に貢献

— 御社の主な事業内容をお教えいただけますか。
当社のメインとなる事業は蒸留装置をつくることで、ベンチプラント蒸留装置や抽出・結晶分離装置の製造、および規格試験装置の製作を手掛けています。蒸留装置や試験装置には日本のJISやアメリカのASTMなどの規格があり、私たちはその中の試験法に添ったコンピューター制御の自動蒸留装置をつくっています。

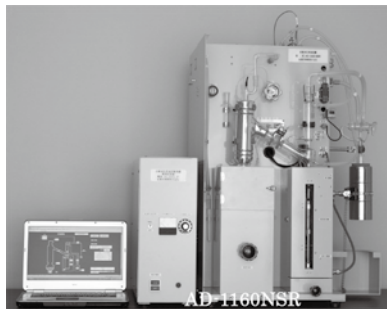
また、当社には大小さまざまな約30台の蒸留・攪拌調合設備があり、受託蒸留試験や受託反応試験を行っています。この受託蒸留試験は、このところ毎

年のようにお客さまからの依頼が増えています。

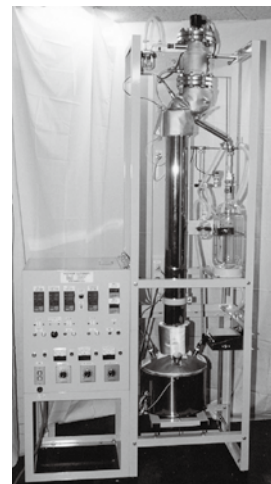
そして3つめの柱となるのが、国際的にも評価の高い海外の分析試験機の販売、保守、修理などの業務です。当社は2003年にドイツの「Petrotest社」、2005年にはカナダの「AET社（Advanced Engine Technology）」、2006年からはオランダの「TAMSON社」の日本総代理店となっています。



自動TBP蒸留装置



自動減圧蒸留試験装置



回収溶媒精留蒸留装置

— 蒸留装置や試験装置などの御社の製品は、どのようなところで使われているのでしょうか。

多いのは石油会社で、日本のすべての石油会社には当社の製品が納められています。原油というのは産地の違いや同じ産地でも年数がたったものは性状が変わってきます。原油の中から付加価値の高いガソリン、あるいは灯油や軽油、その他の成分がどれだけあるかによって価格構成が変わってきますので、原油は性状のチェックが重要になるのです。

また、原油をより有効に活用するために触媒や分解反応を研究したり、バイオ関連の燃料づくりに役立ったり、と使い方はさまざまです。

特に、最近はバイオマスやバイオディーゼル関連の仕事が増えています。研究の多くはテンプラ油、ナタネ油、トウモロコシ、パーム油などから燃料にもっていけないかというものです。パーム油は東南アジアでよく使われており、そのため海外への製品の輸出も増えています。

— 御社の主力商品の特徴という点、どのような点になるのでしょうか。

当社の製造品は規格品よりも受注生産が多く、実験用からベンチプラントまでお客さまの要求仕様に合わせて設計製作しています。

蒸留装置や分析装置はどういうガスや液体を流すかによって、温度、圧力、材料などを考えて設計しなくてはならず、高いノウハウを持っていないと、つくれません。当社では、PXガラス、石英ガラス、ステンレス、アクリル樹脂など、ほとんどの材料を社内加工しており、自社で設計、機械加工、配管、組立、配線を行っています。実験用や蒸留用のガラス機器も、社内でガラス職人が製造しており、特殊技術を積み重ねています。

— 御社の課題、その課題に向けた対策や今後の目標などをお聞かせいただけますか。

ドイツの「Petrotest社」やカナダの「AET社」などの日本総代理店となっていますが、海外には日本国内で生産していない競争力の強い製品がまだ多

数あるので、1つにはこうした販売を強化させたいと思っています。

また、このところ東南アジアでは高い経済成長が続いています。当社では海外戦略という点、これまでは中東を中心にしており、一部ロシアやインドなどにも製品を輸出してきましたが、これからは東南アジアでの販売を強化したいと考えています。

今まではプラントメーカーと一緒に、当社の試験機を輸出する形をとってきましたが、今後は各国で販売代理店をつくり、当社製品だけでなく、あわせて日本の優れた製品を売っていきたくと思っています。とにかく人のつながりを大切にして海外展開し、その国の技術が高まるとともに、私たちも幸せになる。そういう展開を思い描いています。

— 経緯方針、あるいは経営哲学を教えてくださいませんか。

培ってきた当社の技術力やノウハウを日本社会および国際社会に役立て、世界の技術向上に貢献したいというのが、第一の私たちの方針です。特に今は、バイオ燃料分野で地球環境の健全化に役立つ製品をどんどんつくっていきたくと思っています。

企業理念としては、広く国際社会に貢献する技術を磨いて、コンプライアンスを遵守し、社員の健康を守る明るい会社でありたいということを掲げています。

— 小林社長の趣味などを伺えますか。

若いころからテニスを趣味にしていますが、この数年は忙しく、テニスをする回数が減っていました。ですが、好きなテニスをはじめスポーツを積極的に行って、いい汗をかきたいと思っています。

それから、最大の趣味と言えるのが日本の歴史小説を読むことです。特に好きな司馬遼太郎や藤沢周平などの作品はすべて読んでいます。

購入する小説は月に10~15冊ほどになります。出張なども楽しみで、新幹線や飛行機の中で落ち着いて小説が読めるので、いつも5~6冊の小説を持って出かけています。